

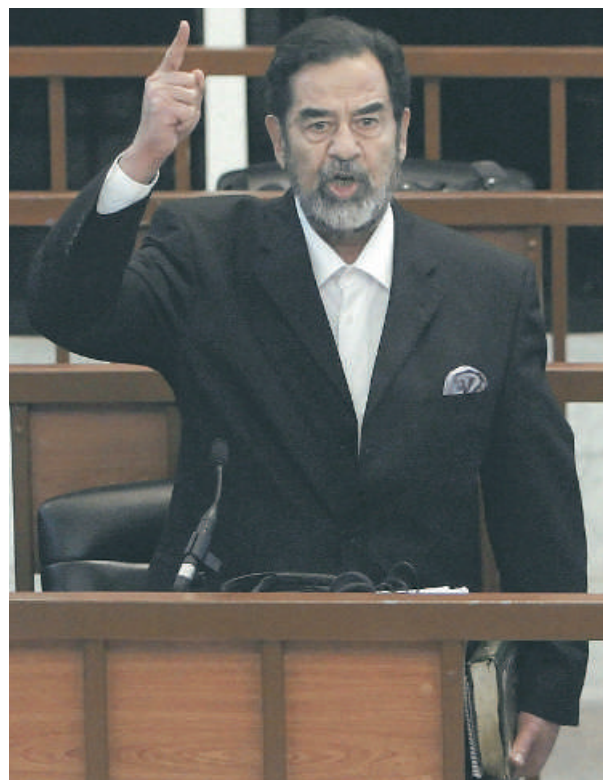
フセイン元大統領処刑

死刑確定から4日目

営道
国報
クビ
ラレ
イテ

【カイロ＝浜口武司】イラク政府は三十日、イスラム教シーア派住民を虐殺し「人道に対する罪」で死刑判決を受けたサダム・フセイン元大統領（六九）を処刑した。イラク国营テレビが報じた。判決確定後、四日目の死刑執行だった。元大統領の処刑には死刑制度を持たない欧州各国や国際人権団体が反対、イラク国内でも治安悪化への懸念から慎重論があった。判決の確定から短期間での執行は治安回復に苦しむ現政権が元大統領の影響力を排除により、現状を打破する狙いとみられる。

イラクのマリキ首相は十一月の一審判決後に「年内の死刑執行を期待す



死刑判決が言い渡されたバグダッドのイラク高等法廷で叫ぶフセイン元大統領＝11月5日（AP）

る」と述べていた。元大統領は一九七九年に就任。八〇年に対イラン戦争を起こし、九〇年にはクウェートに侵攻、湾岸戦争を招いた。二〇〇三年の米軍によるイラク侵攻で政権が崩壊。逃亡したが、同年十二月に逮捕され、〇五年十月から裁判を受けていた。

2006年12月30日発行